

①課題

	本人中心支援	分けない支援	参加・参画のバリアを下げる	社会的孤立を防ぐ	権利擁護を基盤とした相談支援	世帯支援（仮）
つながる	<ul style="list-style-type: none"> ●相談する相手がない人、相談先がわからない人が一定数いる ●予約なしで気軽に相談できる体制への希望 ●相談支援につながるまでの情報が不足 ●医療面で不安になった時に安心して相談できるような場所が不足 ●幼少期から障がいの知識がある支援者や相談先とのつながりが必要 		<ul style="list-style-type: none"> ●精神障がいのある人の外出頻度の低さ ●外出時の困ったときにどうしたらよいかの心配、切符の買い方や乗り換えの方法での困難 	<ul style="list-style-type: none"> ●将来の生活や住まいへの不安 ●相談する相手がない人、相談先がわからない人が一定数いる ●予約なしで気軽に相談できる体制への希望 ●3割以上が差別し、その後泣き寝入りの割合が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ●総合相談の認知度不足 ●相談員の不足 ●相談する相手がない人、相談先がわからない人が一定数いる ●予約なしで気軽に相談できる体制への希望 ●3割以上が差別し、その後泣き寝入りの割合が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ●3割以上が差別し、その後泣き寝入りの割合が高い ●相談支援につながるまでの情報が不足 ●再度療育相談が必要となるケースへの対応
そだつ	<ul style="list-style-type: none"> ●職員・スタッフの不足 ●中学生以上でも療育を受けられる環境が必要 ●幼少期から障がいの知識がある支援者や相談先とのつながりが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習サポート体制や放課後等に過ごす場が不十分との意見がある ●支援学級の子どもと交流する機会や横のつながりがない ●加配の支援員の不足 ●学習への支援の不十分さ 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校と事業所の往復のみで過ごしている ●教室、習い事で児童が参加しづらい雰囲気がある 	<ul style="list-style-type: none"> ●障がいのとらえ方、偏見 ●将来の生活や住まいへの不安 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校での差別の経験が多い ●先生の合理的配慮の認知度不足 ●幼少期から障がいの知識がある支援者や相談先とのつながりが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●少子高齢化 ●介助者の高齢化 ●ヘルパー不足 ●団体活動へ参加する会員の不足 ●ペアレントトレーニングや勉強会が不足
くらす	<ul style="list-style-type: none"> ●介助者の高齢化 ●サービスの内容や自分に合ったものが分からない人が多い ●本人の意思決定に基づくサービス提供が必要 ●総合的に受け入れ可能な専門機関（医療機関）が必要 ●暮らし方の選択肢の少なさ ●ヘルパー不足 ●（防災の）情報が届かない ●室内で身体を自由に動かせたり、音を出せたりする余暇を過ごせる空間、居場所が不足 ●コミュニケーションを学べる場、自分の感情に気づける場があれば良い ●福祉避難所でも受け入れてもらえない事例がある ●避難に関する情報が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ●災害時の情報提供 ●障がいのある人と交流がない人が多い ●避難所での障害特性に応じた配慮 ●教室、習い事で児童が参加しづらい雰囲気がある 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校と事業所の往復のみで過ごしている ●コミュニケーションを学べる場があれば良い ●暮らし方の選択肢の少なさ ●精神障がいのある人の外出頻度の低さ ●外出時の困ったときにどうしたらよいかの心配、切符の買い方や乗り換えの方法での困難 ●障がいのある人が本当に困っているのか、方法が分からず手助けできていない人が多い ●備蓄、訓練への参加意向が低い ●余暇を過ごす場所が少ないこと ●避難訓練の未実施 ●教室、習い事で児童が参加しづらい雰囲気がある 	<ul style="list-style-type: none"> ●介助者の高齢化 ●将来の生活や住まいへの不安 ●障がいのある人と交流がない人は、障がいのある人を手助けする経験が少ない ●近所づきあいの希薄さ ●一人で避難できない人が半数以上 ●親亡きあとへの不安 ●緊急時に助けられるところの少なさ ●障がいの知識を持った人からの支援が十分あれば人生、生活の過ごし方、社会への貢献に影響があった可能性 ●コミュニケーションを学べる場、自分の感情に気づける場があれば良い 	<ul style="list-style-type: none"> ●お金・契約の管理、お金についての学んでいない ●緊急時に助けられるところの少なさ ●ショートステイの利用しにくさ ●総合相談の認知度不足 ●相談員の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ●少子高齢化 ●介助者の高齢化 ●ヘルパー不足 ●避難後に声を出したり、走っても良い安心して過ごせる空間がなければ避難できない ●避難の準備などを考える余裕がない
はたらく	<ul style="list-style-type: none"> ●働く場所・求人、働き方のバリエーションの少なさ ●職場での差別の経験が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ●身体障がいと比べて、知的障がい、精神障がいのある人の一般就労が少ない ●就労先の選択肢の少なさ 	<ul style="list-style-type: none"> ●働く場所・求人、働き方のバリエーションの少なさ ●精神障がいのある人の外出頻度の低さ ●外出時の困ったときにどうしたらよいかの心配、切符の買い方や乗り換えの方法での困難 ●上司や経営者に障がいへの理解を求める意見が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ●将来の生活や住まいへの不安 ●就労先の選択肢の少なさ 	<ul style="list-style-type: none"> ●職場での差別の経験が多い 	
まもる	<ul style="list-style-type: none"> ●本人の意思決定に基づくサービス提供が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●障がいのある人と交流がない人が多い ●支援学級の子どもと交流する機会や横のつながりがない 	<ul style="list-style-type: none"> ●上司や経営者に障がいへの理解を求める意見が多い ●外出時の困ったときにどうしたらよいかの心配、切符の買い方や乗り換えの方法での困難 ●障がいのある人が本当に困っているのか、方法が分からず手助けできていない人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ●障がいのとらえ方、偏見 ●3割以上が差別し、その後泣き寝入りの割合が高 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校での差別の経験が多い ●3割以上が差別し、その後泣き寝入りの割合が高い ●先生の合理的配慮の認知度不足 	<ul style="list-style-type: none"> ●3割以上が差別し、その後泣き寝入りの割合が高い

●統計データ ●アンケート調査 ●ワークショップ ●団体ヒアリング ●コアメンバー会議・策定委員会 ●自立支援協議会